

吉野復興大臣の岩手県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年5月1日(月) 17:58~18:08 於) キャッセン大船渡)

1. 発言要旨

皆さんこんにちは。今日、私は初めて岩手県を訪問させていただきました。

今朝、達増知事にお会いし、御挨拶をさせていただきました。知事からいろいろな課題、お話しになりました。まずはまだ仮設住宅にいる1万2,000人を超える方々、ここへの支援、あとはマンパワーの確保。特に岩手県の場合は水産業、これが一番のメインでありますけれども、なかなか販路拡大が思うようにいかないということで、販路拡大に対する支援をお願いしたいという、等々、インバウンドも含めてございました。

私も岩手県を初めて今日、見させていただきましたけど、いろいろな復興の度合いによっていろいろな課題があるんだということを感じました。

まず、宮古市に参りました。そこは区画整理事業をやっているところでありまして、私の地元福島県いわき市と全く同じような形で、そろそろ住宅が建っておりますが、私のところも同じくらいのスピードであります。

ただ、先ほども言いましたように、ステージ、ステージで、役所というか我々は9割も復興できたって自慢をしたいところなんですけど、それはそれで結構、お話しできますけど、9割復興したところでも課題が残る。その課題を私はきちんと地元に入って、見付けて、その課題解決をしていきたいと。

次には、山田町に参りました。ここは町長さん、コンパクトシティということで、本当にこぢんまりとしたコンパクトシティを作られ、町の方々もそこにおいでいただいて、本当ににこやかなというか、晴れ晴れとしたというか、やっところまで来たんだよというその笑顔で多くの町民の方々が迎えてくれたことが印象に残っております。

次は大槌町で、ここは火災でDNA鑑定でも判明できなかった、70体の御遺骨、これを納骨されているところをお参りさせていただきました。私の同級生も津波でやられて、3年後、小さな骨が見付かりまして、これはDNA鑑定で友人であるということが分かって、御遺族のもとに帰ったわけですけれども、御遺族のもとに帰ることもできない御遺骨をお参りしてきた次第です。

次は釜石、ここは学校が今年の4月からオープンしたということで、やっ仮設の小学校、中学校から自分たちの本当の住みかである、それもすばらしい学校に入ったわけでありまして、5月1

3日に中学校は運動会をやるということで、子供たちの本当に笑顔、これを見ることができました。子供たちの笑顔は我々大人、復興をやっていく者にとって、元気がもらえるんです。そういう意味ですばらしい活動をしているなということでございます。

最後にここ大船渡市に参りました。本当にここは、函館の倉庫群か、あとは小樽の町に来たというふうに勘違いするぐらい、すばらしい施設でございます。本当に復興が、ここまで来たんだなって、みんなで頑張ってきたんだなって、市長さんの御努力、大変なものがあったかと思います。でも、ここまで来ても、冒頭に申しましたように課題はあるんです。その課題を解決するために、これからも地元と一緒に頑張って課題解決のために私としては頑張っていきたいと、このように考えます。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 震災後初めて来られたということで、震災直後は多分、報道だったり大臣は岩手の状況を御覧になったと思うんですけども、そのときと比べて今日、沿岸各地を御覧になってどのような印象を受けられましたでしょうか。

(答) 本当に復興しているなという思いです。区画整理事業、防集等々の手法でかなり、私のところと同じくらいのスピードなんですけど、復興しているなというふうに思いますね。

特に、今大事なものは、私自身、今、津波の映像を見ると、チャンネルを回しちゃいます。今なんです。最初は何でもなかったんですけど、やっぱり少し時間が経って緊張感がなくなってきたから、津波映像を見ることができなくなっちゃったのかなと。今こそ心のケア、心の復興、こういうところに力を入れていかなければならないなというふうな思いです。

(問) 大臣、今回見られて、どのようなことを課題として感じられたか、さらに、その課題に対して復興大臣としてどのようなことをやられていかれたいか、お願いします。

(答) 今日、各町を、市町村を回ってきたんですけど、町とか市によって全く復興の度合いが違いますから、課題が違うんですね。ですから、県知事から言わせれば、1万2,000人の仮設住宅の問題、これは共通の課題だと思いますけど、復興の度合いによって、ここはかなり進んでいます、でも、ここの町にも課題があるんです。その課題を現地に来て、市長さんといろいろお話ししながら、地域の皆さんといろいろお話ししながら見付けて、その課題を解決していきたいと思っております。

(問) 就任直後から「寄り添う」という言葉を何回もお使いになられていると思うんですが、今日は行政の方中心で、住民の方とは余り対話できなかつたと思うんですが、これからどのような機会を作っていきたいかというのをお願いします。

(答) これから時間を取りまして、行政のみならず、本当に被災した方々との意見交換、これを私はやっていきたいと思っています。

実は、私、福島県では、行政よりも被災した方々との意見交換の方を多くというか、ほとんど被災した方々との意見交換。そこにいろんな課題があるんです。だから、その意見を踏まえて、衆議院で56回です。多分私、当時野党だったものですから、56回、それも1時間、1時間で56回質問するというのはかなりネタ切れというか、でも、1日、2日で次なる課題が生まれてくるんです、被災地というのは。ですから、そんな形でやっぱり現場の声、行政のみならず現場の声を聞くことがいかに課題を見付ける上で、そして課題を解決する上で大事かというのは、私自身が今まで6年間やってきましたので、これを今度は岩手、宮城、青森、茨城も被災地ですので、そこまで行っていろいろ話を聞いてきたいと思っています。

(以 上)